

広域指定の文化財

先島諸島火番盛位置図





凡例

- 世界遺産
- 国指定史跡 国指定名勝
- 県指定史跡 県指定名勝
- 登録記念物 特別名勝

道路凡例

- 国道
- 県道主要地方道
- 県道一般道
- 高速道路
- 市町村境界線

先島諸島火番盛

●指定年月日／2007(平成19)年3月23日



先島諸島火番盛とは

先島諸島火番盛は宮古・八重山諸島にある近世・近代の遺跡です。

「火番盛」とは、「火を焚く丘」という意味で、沖縄本島ではヒバンムイ、八重山諸島ではピーバンムルと発音されています。その他にもさまざまな呼び方がありますが、琉球の史料には「火番所」または「遠見番所」と記載されています。

遠見番所は、江戸時代に鎖国政策との関連で、1638(寛永15)年に幕府が長崎港外に遠見番所を設けて異国船侵入の監視をしたのが始まりとされ、海上交通の警戒監視・通報の役割を果たしました。一方、琉球の遠見番所の制度は、琉球の歴史書『球陽』によると1644(尚質4)年に始まったとされています。それには、各地に「遠見番所」が設置され海上の船の行き来を監視し、発見すれば決められた回数のさしの烽火をあげて伝達する決まりが記されています。

このように火番盛は、離島で構成される琉球列島の情報伝達や通信のあり方を具体的に示しています。また海上交通の警戒監視・通報の役割として、先島諸島は最南端にあり、明清時代の中国に最も近く、また薩摩藩の支配を受け日本の鎖

国体制の影響を受けざるを得なかった歴史を示しています。

琉球列島には「遠見番所」の遺構いこうが残っており、特に、先島諸島には良好な状態で遺構が残っています。その中で、現在19カ所が「先島諸島火番盛」として国の史跡に指定されています。以下順に紹介します。

なお、各遺跡の名称は、古文書などの史料や地元で使用されている呼び方を用いています。

【コート盛ムイ】

コート盛は、波照間島の公民館の北北西約300mに位置し、基底部分の直径が約8.2m、高さ約3.8m、上面の直径が5.5～6.6mに積み上げられた石積み遺構いこうです。石積みは二層に廻され、右側から貫くように階段が築かれており、頂上部には方位石があります。



DATA

所在地：竹藪町字波照間

国指定史跡

さきしましょとうひばんむい

先島諸島火番盛

●指定年月日 / 2007(平成19)年3月23日



【池間遠見】

池間遠見は、池間島南端の標高約15mの丘陵上にあつて、東方には大神島を望み、南には、宮古島の市街地を眺望できるところにあります。この遠見は、岩盤を利用して円柱状形に造られ、登り降りするための石段が約40段設けられています。



DATA

所在地：宮古島市平良字池間



【大神遠見】

大神遠見は、地元では「大神島の遠見台」と言われ、島の中央の標高74.7mの地点にあり、タウンバラと称する底面約5m×3m、高さ約3.5mの琉球石灰岩の巨石があります。このタウンバラは信仰の対象として祭祀の行われる場所です。



DATA

所在地：宮古島市平良字大神

注意事項：大神島遠見台までの道のりには、多くの御嶽が存在します。御嶽は神聖な場所のため、むやみに立ち入らないようにしましょう。



【狩俣遠見】

狩俣遠見は、狩俣集落の北東方の丘陵上に位置します。東方には大神島を望む断崖にあり、方位を刻した円柱形の*方位石が設置されています。狩俣では、明治の末頃まで壁は石積みで瓦屋根建物(約3坪)の*遠見番屋が遺されていました。



DATA

所在地：宮古島市平良字狩俣

国指定史跡

先島諸島火番盛

●指定年月日／2007(平成19)年3月23日

くりにまとおみ
【来間遠見】

来間遠見は、来間島の標高約47 mの丘陵上（きゅうりやう）に琉球石灰岩でできた3mほどの螺旋状（らせんじょう）の階段を8段設けており、その中に方位を示す石なども備えられています。去る沖縄戦の最中に旧日本陸軍によって、更に強固に補強され、現在の形となっています。



DATA

所在地：宮古島市下地字来間

しまじりとおみ
【島尻遠見】

島尻遠見は、島尻集落の北東部の丘陵上（きゅうりやう）に位置し、ムウトズマ（元島）への途中、右方向の小高い丘へ登った所にあります。標高約21 mの所に約5m×3.5 m四方の広場があり、方位を刻した（こく）*方位石が設置されています。



DATA

所在地：宮古島市平良字島尻

うるかとおみ
【砂川遠見【トゥンカイフツイス】】

砂川遠見は、上比屋山の南端にあります。琉球石灰岩の切石積みで、北向きの出入口に階段が設けられており、東西約7m×南北約4.5 mで、東壁の高さが約1 m規模の（いこう）*遺構です。遠見台から太平洋が一望でき、眼下には砂川元島（砂川村跡）などがあります。



DATA

所在地：宮古島市城辺字砂川

(写真)宮古島市教育委員会提供

先島諸島火番盛

●指定年月日 / 2007(平成19)年3月23日



【宮古遠見】

宮古遠見は、多良間島の標高約20 mの地点に築造され、琉球石灰岩の切り石を用いて螺旋状に積み上げています。底面の周囲28 m、高さ3.7 m、頂上方径2 mの規模をした砦風の遠見台です。石段があり、頂上に*方位石らしき石が置かれています。



DATA

所在地：多良間村字仲筋



【八重山遠見】

八重山遠見は、多良間村役場の北方約700 mに位置し、標高32.7 mの島で一番高い丘陵上に築造されています。この島特有の砂岩の切り石を積み上げ、底面の周囲が22.7 m、高さ2.5 m、頂上は周囲が16.9 mの円形で、螺旋状に階段が設けられています。



DATA

所在地：多良間村字仲筋



【水納遠見】

水納遠見は、水納島で一番高い標高10 mの東海岸に面した位置にあり、特に人工的に施された石積みの構造物は存在しません。自然の平坦な場所を遠見台として利用していたようです。その一角には*烽火を上げたという場所があります。



DATA

所在地：多良間村字水納

先島諸島火番盛

●指定年月日／2007(平成19)年3月23日



【平久保遠見台】

平久保遠見台は、石垣島東北部平久保半島の北端、標高84.7mの小丘に位置しています。川平石崎半島から北の方位に対する眺望が優れています。人工的に施された石積みの構造物は存在しませんが、*烽火制度の要所の位置にあります。



DATA

所在地：石垣市宇平久保



【川平火番盛】

川平火番盛は、川平石崎半島の中央から北方海岸寄り、石垣島の北端の平久保から*烽火を受ける地点にあります。約15mの小高い丘に花崗岩の野面積み(P56)の石積み*遺構が円形状にあります。現在はチガヤ(植物)などで覆われ原野となっています。



DATA

所在地：石垣市宇川平



【大岳】

大岳は、小浜島の中央よりやや北よりに位置する標高約99.2mの島で最も高い山にあります。眺望は極めて良好で、与那国島を除く八重山の全ての島を見渡すことができ、*烽火制度の要所となる位置にあります。*遺構や*方位石は確認されていません。



DATA

所在地：竹富町宇小浜

国指定史跡

さきしましょとうひばんむい

先島諸島火番盛

●指定年月日 / 2007(平成19)年3月23日

フスフムイ
【小城盛】

小城盛は、竹富集落の北端にあり、チャート^{おが}を基盤とする標高20mの岡に北壁の高さ4m、南壁の高さ4.4mの琉球石灰岩を積み上げた石積^{いこう}*遺構です。頂上には*方位石があります。小浜島や黒島の^{のろし}*烽火を石垣^{くろもと}の蔵元に繋ぐ役割を果たしていました。



DATA

所在地：竹富町字竹富

国
史
跡

【タカニク】

タカニクは、新城島^{あらでくじま かみちじま}（上地島）の集落の北北東約300mにあります。基底部分^{きてい}の直径約7m、高さ約2.8m、上面の直径約3mの三層の琉球石灰岩の石積みからなり、正面には階段が設けられています。石積み^{それぞれ}は各々円形状に三層に築かれています。



DATA

所在地：竹富町字新城

注意事項：タカニクへの道のりには、神聖な場所が存在します。みやみに立ち入らないようにしましょう。

ナカムリ
【中森 [波照間ムリ]】

中森 [波照間ムリ] は、新城島^{あらでくじま}（下地島）のほぼ中央部にあります。基底部分^{きてい}の直径が約7m、高さ2.8m、上面の直径が3~3.8mの三層からなる琉球石灰岩を積み上げた石積み^{いこう}*遺構です。遠見台に設置された階段を登ると、頂上部へと至ります。



DATA

所在地：竹富町字新城

注意事項：島のほぼ全域は私有地のため、許可を得て立ち入るようにしましょう。

先島諸島火番盛

●指定年月日／2007(平成19)年3月23日



【中森】

中森は、鳩間島中央よりやや南の、島で最も高い標高約 33.5 m の小丘にあります。現在、近くには灯台が設置されています。*方位石の存在は確認されていません。また、同地には先島先史時代後期の時期に位置付けられる鳩間中森貝塚があります。



DATA

所在地：竹富町字鳩間



【ブズマリ】

ブズマリは、黒島宮里集落の南側、宮里海岸の近くにあります。基底部分の直径約 20 m、高さ約 9 m、上面の直径約 3.4 ~ 4.7 m の琉球石灰岩を積み上げた石積*遺構です。火番盛としては、典型的な渦巻状の形状をしています。*方位石は確認されていません。



DATA

所在地：竹富町字黒島



【ダティグチディ】

ダティグチディは、与那国町の祖納集落から東へ約 4km の場所にあります。東牧場の入口近くに位置する標高約 78.7 m の小高い丘にあり、風光明媚な場所です。石囲いになっており、その中には*火の神と思われるものと*方位石があります。



DATA

所在地：与那国町字与那国

広域指定 (アマミクヌムイ〈アマミクの杜〉)



アマミクヌムイ（アマミクの杜）

国指定名勝

■ 今鬼神ノカナヒヤフ（テンチジアマチジ）及びこはおの御嶽（クバの御嶽）

●指定年月日／2015(平成27)年10月7日



今鬼神ノカナヒヤフ（テンチジアマチジ）

沖縄県内には、琉球の始祖アマミク（アマミキョ）が造ったとされる御嶽などがいくつも存在しています。「アマミクヌムイ」（アマミクの杜）は、その中でも特に歴史的な価値が高い御嶽などを指定したものです。

今帰仁村にある「今鬼神ノカナヒヤフ（テンチジアマチジ）」は、琉球で最初に編集された歴史書である*「中山世鑑」（1650年）に、開闢神アマミク（阿摩彌久）が造つ



DATA

所在地：今帰仁村字今泊

注意事項：今鬼神ノカナヒヤフは、今帰仁城跡内にあるため、今帰仁城跡の開園時間内には見学できません。

御嶽内は神聖な場所です。むやみに立ち入らないようにしましょう。

たと記述されている御嶽で、今帰仁城跡の御内原に位置します。御嶽は、地元では「テンチジアマチジ」と称されています。城跡内で最も神聖な場所とされ、約10m四方の低い石積みの中にイビ（神石）が置かれ、現在も多くの参拝者が訪れています。

「こはおの御嶽（クバの御嶽）」もアマミクが造ったとされる御嶽です。今帰仁城跡の南側に位置する小丘があり、その全体が御嶽とされています。地元では、クバの御嶽とも呼ばれています。現在は、クバ（ビロウ）よりも常緑樹に全体が被われていますが、聖地の雰囲気が残されています。



こはおの御嶽（クバの御嶽）

アマミクヌムイ（アマミクの杜）

国指定名勝

■ 久高コハウ森（久高のフポー御嶽）

● 指定年月日 / 2015(平成27)年10月7日



コハウ森の内部(写真:南城市教育委員会提供)

国
名
勝

南城市の久高島にある「久高コハウ森（久高のフポー御嶽）」もアマミク（アマミキヨ）が造ったとされる御嶽です。地元では「フポー御嶽」とも呼ばれています。御嶽はとても神聖なところとされ、草一本さえ持ち帰ることは許されません。元々男子禁制とされていましたが、現在でも、一般の人々は立ち入り禁止となっています。

この久高島は、琉球国時代に国王が訪れた島であり、

ニライカナイにつながる神の島といわれています。「久高コハウ森（久高のフポー御嶽）」は、島の中央に位置し、最も大切に扱われている聖地です。

いずれの御嶽も、琉球国時代から祈りや信仰の場として重要な役割を果たしたところで、現在でも神聖な場所として、人々から大切にされています。



DATA

所在地：南城市知念字久高

注意事項：御嶽内は神聖な場所です。むやみに立ち入らないようにしましょう。立ち入りが禁止されている場所には、入らないようにしましょう。



御嶽の入口(写真:南城市教育委員会提供)

